

前年度の成果と課題	教育目標	人間性豊かな、知（確かな学力）・徳（豊かな心）・体（健やかな体）の調和のとれた児童の育成を目標とする。				総合評価		
<p>昨年度の児童の評価結果は大変良く、学校が楽しいと答える子どもが94%であった。保護者の評価では「児童のあいさつが返ってこない」「校内環境が整っていない」等の反省点が出された。学校関係者からは「子どもがあいさつをするのに、親があいさつできない」という意見や子どもに正しい判断力を育てていく必要性、学習のきまりや学習のスタンダードを身に付けさせることの必要性が指摘された。</p>	運営方針	いのち輝き 感動いっぱい つなごう絆 を合い言葉に、確かな学力を身につけ、自尊感情と相手を思いやる豊かな心を育てる教育を推進する。				B		
	本年度の重点目	<p>○学びづくり：学習習慣の定着を図る。国語科での系統的な「書く」指導の取組。読書への興味関心を高める取組。計算力・語彙力を高める取組。ICT機器の活用とオンライン授業の導入（感染関係で欠席した児童に対して）。</p> <p>○人づくり：（豊かな心の育成と健やかな体づくり）・心の教育の重視、心に響く道徳教育や人権教育の充実 ・挨拶や言葉遣いなど礼節の心、社会生活上の規則を遵んで守ろうとする規範意識の醸造、健康教育や食育、体力づくりを充実し、心身ともに健康で丈夫な体づくりの推進 ・体験活動の重視（コミュニティへの依頼）→（自己決定、自己有用感、共感的な人間関係の育成</p> <p>○協働づくり（主体的な参画と協働）：同僚性が豊かな教職員集団、「課題や悩みを出しあい、学びあうことで教師力を向上させる」→情報の共有化・二上コミュニティを核に、保護者や地域との協働、幼保中との連携 ・情報発信を積極的に行い、「地域の学校」としての役割を果たす。</p>						
学校経営	評価の観点			児童	保護者	評価	成果と次年度への課題・対応	学校関係者評価
1. 学校運営	◎教育目標や指導の重点を理解し、それらの実現に向けて取り組んでいる。			3.4	3.3	B	<p>本校の強みは生産学習や体験学習にコミュニティというサポーターがついていることである。米作りや野菜づくりなど植えたら終わりではなく、該当学年で見通しをもって取り組んでいくことや取り組んだ内容を学校だよりや学年だよりで保護者へ伝えていくことで、本校の特色をより理解してもらうことにつながる。より活動しやすい校務分掌で話し合う時間を生み出していく。6部会になった時には、学年全てがそろっていないことも考えられるので、全学年がそろってなくても事前に聞いておき検討したりと工夫し、人数が少なく意見が出にくいということを言わず、少人数精鋭部隊という自覚をもって建設的に取り組んでいく。</p>	<p>コミュニティの意味や方向性、二上小の課題について、新しく赴任された教員を含めしっかり確認する必要がある。毎年「報連相」が課題としてあげられるが、本年度十分にできていたかどうか。また生徒指導案件に絡んだ内容について、チームとして組織が機能していたかしっかり振り返ってほしい。学校を安定させるために学級経営を大切にすることは基本的なことである。</p>
	◎校務分掌部会や学年会を適時に実施し、チームで企画・運営・反省等をしている。							
	◎校務分掌において、昨年度の総括・課題等をふまえ、新たな提案や改善をしながら取り組んでいる。（PDCA）							
	◎家庭への様々な啓発活動（学校だより、HP、学年通信、保健・給食だより、家庭訪問、学級・学年懇談等）を通して、学校や学年・学級の取組等が保護者に伝わっている。				3.3			
	◎地域や保護者、コミュニティからの意見を学年や分掌で共有し、改善に生かしている。				3.2			
◎児童や学校の実態を踏まえた、特色ある教育課程が編成されている。				3.0				
2. 学習指導	○教室で落ち着いて学習できる環境を整えている。			3.5	3.3	B	<p>学習のきまりを有効に活用し、家庭への啓発方法を工夫していく必要がある。</p> <p>・基礎学力の定着や習慣化などは時間を有する取組だが、次年度も落ち着いて学習できるように、環境を整え、復習ノートなどの取組も継続する。文章に慣れ親しみ、表現できるよう全校で取り組み、基礎学力の定着を図る。</p> <p>・道徳科や人権教育を大切に、他者理解や思いやりの心を深められる授業作りや学級経営を行っていく。</p> <p>・読書環境を整え、学校だけでなく家庭でも読書に取り組める環境づくりが必要である。</p> <p>・児童の様子に目を向けながら授業づくりに取り組んでおり、「授業がわかりやすい」と感じている児童が多い。学級経営や学習指導、児童理解など研鑽を積み、教員同士で情報共有したり、参観のしあいやアドバイスをしあったりして教員としての指導力や資質・能力の向上に務める。</p>	<p>小学校ではどのような英語の取組を行っているのか。（高各年では「読む」「書く」、中学年は「聞く」「話す」など体験的な学習を行っている）これからの時代は英語の必要な時代である。しっかりと取り組んでほしい。</p> <p>読書活動については学校の取組だけでは難しい問題である。家庭でも本に親しめるように協力してほしい。</p>
	○「学習のきまり」を活用し、学習規律の意識づけを図っている。			3.4	3.1			
	○毎日適切な課題（宿題）を出し、家庭学習の充実を図っている。			3.6	3.3			
	○子どもの発言や質問に耳を傾けながら、「わかる」「できる」ための指導を工夫している。			3.7	3.3			
	○思いや考えを伝え合い、互いに認め合える子どもを育てるための指導を工夫している。			3.3				
	○めあてを明確にした授業づくりや振り返りを取り入れた授業づくりを展開している。							
	○様々な読書活動を通して、読書量を増やし、読書が好きになるような指導を工夫している。			3.3	2.5			
○計画的に道徳の授業を行い、子どもの心に響く指導を工夫している。								
3. 生徒指導	◎児童同士・地域の方・教職員に進んであいさつをしている。			3.3	2.8	B	<p>なぜあいさつをしないといけぬのか、なぜきまりを守らないといけぬのか理由を各学級でしっかり伝えていく。</p> <p>下校指導を継続していく。</p> <p>教職員のアンテナをはり、児童の変化に早急に対応できるように日々関わっていく。</p> <p>「あいさつ」について保護者2.9から2.8へダウン。児童は黙礼、小さな声や大きな声のあいさつ様々であるが、できる子が多い。</p> <p>「校内環境」について2.9から3.2へアップ。トイレのスリッパをそろえられるよう声かけを続ける。まだまだ教員が率先して片付けている場面もある。児童の中には進んでそろえてくれる子もいる。掲示板の破れやいたづら書きについては点検を欠かさない。</p>	<p>挨拶についてはこちらからすると必ず返してくれる。しかし、不審者出没等の関係で、大人も声をかけにくい時代である。西中学校へ行く生徒がよく挨拶してくれる。小学校からの積み重ねがあるからできているのではないかと。中学校でも小学校と同じようなアンケート結果が出ている。8割の生徒は、朝の挨拶をしてくれる。車で校区を巡視しているときは挨拶が返ってこないときもある。</p> <p>親が挨拶しないのは考えられないことである。保護者の感覚が教員に対して友達感覚であったりするのか。教員の感覚はどうなのか。先生が熱心に指導し、保護者はそれを理解し、認めてくれていたが、今はそれが難しい時代である。大人も集まりに来ない時代である。集まってもスマホをいじっている人がいる。コミュニケーション能力を高める手立てが必要である。今後も小学校で進めてほしい。学習環境（掲示物、整理整頓）を整えてきている。</p>
	◎学校の「やくそく」や「決まり」を守って生活する。			3.6	3.3			
	◎避難訓練（火災・地震）等の指導を児童の安全意識の向上のために適切に行っている。			3.7	3.4			
	◎登下校中は車や自転車などに気をつけ、片側によって歩くように指導している。			3.8	3.4			
	◎校内環境を美しく整えている。			3.6	3.2			
	◎植物の栽培活動を通して、生長の喜び、達成感、勤労観を育てている。			3.5	3.4			
4. 健康教育	◎運動や遊びに関心をもち、進んで体力向上に取り組む子どもたちが増えるように、取組の工夫が行われている。			3.4	3.1	B	<p>今後も進んで運動に取り組めるような授業や取組を、系統立てて行えるようにしていく。そのために、再度年間指導計画の見直しを行う。</p> <p>今年度の体カテストの成果として、6年生男女と3年生男子において、多くの種目で県平均を上回っていた。また、上体起こしにおいても、ほとんどの学年が県平均を上回った。課題としては1、2、4年の全般、ボール投げ（全学年）、3年生シャトルラン、1年女子と5年男の立幅跳びにおいて、県平均以下であることが分かった。課題に向けての改善を進めていく。</p> <p>食物アレルギー関係の研修は今後も継続して行っていく。</p>	
	○年間指導計画（ゲーム・ボール運動、器械運動、プール水泳）に沿って行い、児童の実態に合わせて授業の工夫を行っている。			3.7				
	◎給食指導などの食に関する指導により、児童の望ましい食習慣（食事マナー、好き嫌いせずに食べる等）が身に付いてきている。			3.5	3.0			
	◎保健指導により、心と体の健康に対する知識及び態度が身に付いてきている。							
5. 人権教育	○いじめや日頃のトラブル、悩みなどについて、子どもの話に耳を傾け、ていねいに内容をつかみ、気持ちによりそいながら対応している。			3.7	3.1	B	<p>教員が児童の聞き取り内容をメモし、次の学年に上がっても新しい担任等が共有できるようにする。</p> <p>児童の声に耳を傾け、学級経営を大切にしてきた。</p>	
	○自尊感情と相手を思いやる心を育む具体的な取組を行っている。			3.6				
	○個別の課題に対して、計画的・継続的に取り組んでいる。							
6. 特別支援	○一人一人の学び方の違いに配慮した指導や支援を行っている。				3.3	B	<p>必要に応じて、対策を講じたり校内委員会を持つことができた。</p> <p>支援の人員が足りず、それぞれの担任との連携の仕方が課題である。</p>	
	◎児童実態交流や校内支援委員会、ケース会議により、児童の理解や指導、支援体制に生かされている。							
7. その他	毎日、朝食を食べ登校している。			3.8	3.8		<p>ほとんどの児童が朝食を食べて登校している。95%の児童が学校を楽しみにしている。学校や学級に入りづらい児童の対応について保護者とも連携し、柔軟に対応していく。</p>	
	早寝、早起きの習慣が身につけている。			3.2	3.2			
	学校生活を楽しく送ることができている。			3.7				

評価はA・B・C・Dの4段階

点数はアンケートの よくてきた4点 だいたいできた3点
あまりできなかった2点 できなかった1点 の平均点